

産業建設常任委員会記録

平成27年9月18日

【開催日】 平成27年9月18日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前10時00分～午前11時26分

【出席委員】

委員長	松尾数則	副委員長	河崎平男
委員	大井淳一朗	委員	杉本保喜
委員	中島好人	委員	長谷川知司

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山信義	副議長	三浦英統
----	------	-----	------

【執行部出席者】

産業振興部長	姫井昌	産業振興部次長	多田敏明
商工労働課長兼企業立地推進室長	白石俊之	商工労働課主査兼商工労働係長	山本修一
商工労働課商工労働係主任	三浦裕	企業立地推進室主任	原田貴順
観光課観光振興係長	安藤知恵	企画課行革推進係長	別府隆行

【事務局出席者】

局長	古川博三	庶務調査係主任主事	梅野貴裕
----	------	-----------	------

【審査事項】

- 1 観光振興ビジョンについて（観光課）
- 2 企業誘致の推進について（企業立地推進室）
- 3 雇用の促進策について（商工労働課）

午前10時 開会

1 観光振興ビジョンについて

【議事の概要】

観光振興の方向性

- (1) 地域文化の振興やまちのイメージアップ効果が見込まれる観光振興
本市には自然や歴史、娯楽や体験型資源など大変魅力的な観光資源があり、それをイメージアップしていくことが今後の重要な課題である。観光ガイドだけでなく飲食や宿泊を含んだ幅広い意味でのホスピタリティサービスを地域資源活用型産業と位置付けて、各団体と連携して効果的なイメージアップを図っていききたい。
- (2) 居住環境向上や定住促進効果が見込まれる観光振興
市広報誌の毎月1日号に「わがまち再発見」のコーナーを設けており、10月1日号で88回目となっている。観光協会が作成した観光検定ガイドブックを随時販売しており、このガイドブックに基づいた観光検定を毎年実施している。今年度も観光協会主催で12月に開催する予定である。市民自らが「わがまち」を再発見することで他市へのPRにもつながり定住の促進効果が期待される。
- (3) コミュニティ活動の活性化や生きがいづくりが見込まれる観光振興
観光交流人口が増えると市民や市外の方との交流の機会も増える。また、市民が自らの知識や経験を生かして活躍できる機会も増えるので人々の生きがいにもつながる。現在本市では何団体かが勉強会などを開催しており、観光協会では観光ガイドの研修会としておもてなしの心やガイドとしての心得を学ぶ機会を提供している。
- (4) 健康づくりの効果が見込まれる観光振興
観光振興によるウォーキングイベント等への参加は心身両面における健康づくりにも役立つので、良い生活環境を整えていきたい。
- (5) 経済波及効果が見込まれる観光振興
「まち歩き」を通じて市外からの来訪者を招き、お金を消費していただく。現在市外からも多くの方がウォーキングなどで当市にお越しいただいている状況にある。団体でいらっしゃる方も多く見受けられ

るので、引き続きPRをしていきたい。

【主な質疑】

杉本保喜委員 観光検定は今まで他市町から何人が受験しているのか。

安藤観光課観光振興係長 今この場では詳しい数字を把握していないが、他市からも受験に来られている。

姫井産業振興部長 2回目に熊本から観光検定に来られた。

杉本保喜委員 ふるさと検定マニアというのがいる。私の知人にも長門から受験して語り部の会に入ってくれた人がいるので、今回の検定もPRしていただきたい。

安藤観光課観光振興係長 情報発信をしっかりしていきたい。

杉本保喜委員 10周年記念ウォーキングは継続する方向で考えているのか。

安藤観光課観光振興係長 このたびの10周年記念のウォーキングは観光協会と社会教育課の同時開催である。社会教育課のほうは把握していないのでお答えできないが、観光協会では毎年ふるさとウォークを行っており、来年も実施予定である。

杉本保喜委員 リピーターを作ることが観光においては非常に重要な施策の一つである。他市ではウォーキングによって6世帯くらい移住してきたという実績があるので継続していただきたい。

安藤観光課観光振興係長 ウォーキング大会は継続的に進めていく。また、リピーターの方にもたくさんお越しいただけるような効果的な情報発信も進めていきたい。

長谷川知司委員 山口県の観光パンフレットに山陽小野田市は花の海、1か所しか載っていない。県全体から見たら山陽小野田市は余り魅力的ではないという位置付けになっている。他市とタイアップをするという戦略もあると思うがどうか。

安藤観光課観光振興係長 単市で誘客というのは難しいので、近隣市との連携は欠かせない要素となってくる。一生懸命に働き掛けをして一緒にPRができるように努めていきたい。

杉本保喜委員 観光課が自慢げに言うべきことは産業観光ツアーである。美祢と宇部と山陽小野田とが一つになってツアーのルートを作っているが大

半は宇部、美祢のほうになっている。観光課として積極的に協力団体に声を掛けて、その団体が動きやすい土壌を作る必要があると思うがいかがか。

姫井産業振興部長 産業観光バスツアーは平成25年の産業観光まちづくりという全国コンクールの中で銀賞をいただき、全国的にも認知をされている。産業観光バスツアーはリピーターが多くマンネリ化をしないように進めていかなければならないので、今年度は体験型のツアーを考えている。他市へ行って観光課、観光協会とも情報交換をしている。

大井淳一郎委員 宇部市がレノファ山口のホームタウンになったので、宇部市とスポーツツーリズムで協定を結ぶことも観光にもつながるのではないか。山陽小野田市のサッカー練習場、宇部市の人を呼び込める土壌等お互いが欲しているところがあるので、宇部市や美祢市との観光協定的なことも進めて行くというのはいかがでしょうか。

姫井産業振興部長 観光に関しては他部署に比べると近隣市との関係や結びつきは強いと思っている。協定については今後検討させていただきたい。

大井淳一郎委員 宇部市は一昨年くらいにフィルムコミッションを設立した。山陽小野田市にもいろいろな地域資源がある。それらを撮影地にするためにはフィルムコミッションの設立が必要であり、山口県のフィルムコミッションとも連携して地域資源を掘り起こし、発信していく必要があると感じているが、その点はどのように考えているか。

安藤観光課観光振興係長 先日、県でのフィルムコミッションの担当者会議に出席した。宇部市も単市ではなかなか素材が集まりにくいところがあるようで、宇部市の担当者から素材提供の声掛けなどもいただいている。フィルムコミッションについてはそのような情報提供をいただきながら進めている。

杉本保喜委員 竜王山は指定管理者がインターネットでPRしているが、江汐は発信していない。PRの手法にばらつきがあるので、フィルムコミッションを設立して全体的なPRを全部つかさどるような形にすれば発信の仕方も変わってくると思うがどうか。

安藤観光課観光振興係長 フィルムコミッションは立ち上がっていないが、C

Mや映画のロケ地のお誘いがあった場合にはこちらも一生懸命探している。決して片手間でやるようなことはしていない。今の体制でできる範囲で情報発信にも努めていきたい。

大井淳一郎委員 指定管理ということであれば、モニタリングも含めて仕様書の中に発信というところも評点項目に入れるなどができるのであればやっていただきたい。

中島好人委員 明日から大型連休が始まるが、どこに行こうかと考えたときに、料理、旅館、温泉、花など何を目当てにするのかという目線で見っていく必要がある。同時にツアーとは別に子供がいたらガラス体験をさせて、竜王山に桜があれば桜を見て、きららに泊まって夕日を見るというコース、明るく日は山陽のほうのコース、江汐のコース、歩いてみませんかコースなども含めながら、歩いた後は汗を流すというようないろいろなコースがないと単発ではあまり行こうかという気にならないのではないかと思う。そういうことは今後も方向性の中に入らないのか。

姫井産業振興部長 大きなポイントだと思っているのは、市外からの訪問者の観光客誘致に限定するだけではなく、市民もまち歩きを通して訪れること。市民と市外からの来訪者双方を主役として位置付けている。市外の方には新聞広告等でPRをしている。また、ターゲットを絞らないといけないので、ターゲット別のコースを掲載したパンフレットを作成したい。

中島好人委員 自分のことを考えると、子供が小さいときによく出掛けていた。若い人をターゲットにするというのは大事だと思う。単発じゃなくて丸ごと山陽小野田市というのも大事だし、宇部市との連携するコースも大事だろうし、現在にあった作戦が必要だと思うが、説明を見ると従来の単発的な内容しか見えないので、その辺を考えて欲しい。

河崎平男副委員長 いろんな場所で観光パンフ等を配っているが、連休中はどこに問い合わせたらいいのか。また、観光検定ガイドのネットワーク化はしていないのか。ネットワーク化をして休日はここに聞けばいいというような体制作りが必要だと感じるがどうか。

姫井産業振興部長 電話等で市外の方からも毎日のように観光協会のほうに問

い合わせがあるので、市内の新しい観光情報を的確に把握しながら対応している。土日の対応は観光協会の職員が出ていないので、苦しいところである。それから観光のネットワークを9月初旬にようやく開催した。今まではネットワークの団体の会議というのが全くなかったので、漁協、農協、旅行会社、旅館組合、飲食店組合、ゴルフ協会等々17団体で初めて開催した。今後はこの関係団体でお互い団体同士、事業者同士で連携をしていただきたいというのが大きな願いである。まだ1回目なので今後どうなるかはわからないが、ネットワークの構築には努めて行きたい。

河崎平男副委員長 検定ガイドの認定を受けられた方の人数は。

安藤観光課観光振興係長 昨年度は初級に17人、上級に15人受験をされており、8割から9割の合格者がいる。

河崎平男副委員長 検定ガイドで合格された方のネットワークというの作らないのか。

安藤観光課観光振興係長 検定に合格された方はボランティア団体のほうに声掛けをさせていただいている。

大井淳一郎委員 観光検定を合格したけれどもその後がないのではないか。合格した人はガイドとして活躍してもらおうことを考えていると言われていたように、次につなげる必要があるのではないか。

松尾数則委員長 観光ボランティアのガイドは何名いるのか。

安藤観光課観光振興係長 実際に活動されているのは1団体で、動かれているのは10名程度と把握している。観光マップのほうに、観光ガイドの問い合わせ先は載せており、随時受け付けしている。

姫井産業振興部長 検定ガイドに合格された方は観光ガイドボランティア、山陽小野田語り部の会のほうへの加入をお願いしている。

河崎平男副委員長 検定ガイドには市や観光協会も絡むので、語り部の会とは別に市と観光協会が中心になって新しく受けられる方のネットワークを作るべきではないか。

大井淳一郎委員 観光検定合格者を対象にステップアップ研修みたいなものを実施して、将来的な観光ガイドへ育成していく仕組みづくりを検討して

みてはどうか。

姫井産業振興部長 受けられた方は語り部の会に加入していただいて、更に皆さんを積まれて観光ボランティアになっていただきたい。今回初めて観光ボランティアガイドの研修会を開催し、おもてなしと受け入れ態勢についての研修を行った。今後もガイド、ボランティアの育成についての研修会を開催していきたいので参加いただくように努めていきたい。

杉本保喜委員 私も観光ボランティア研修会に参加した。いい勉強になったが、受講した人たちの熱が冷めないうちに第2弾を出さないと効果がなくなる。第2弾、第3弾をどのように考えているのか。

安藤観光課観光振興係長 1回で終わらせるつもりはない。現在活動されている団体とも協議をしているが次のテーマを決めかねている。

杉本保喜委員 観光ビジョンには観光ボランティアの育成をうたっている。基本戦略を立てた以上はもっと積極的に、少なくとも4月にはデビューできるといぐらいに進めていただきたい。

姫井産業振興部長 この度初めて観光ボランティアガイドの研修会を開催したが、次回は本市の観光地の研修がいいのではないかと考えている。ネットワーク作りや庁内プロジェクト、ボランティアガイドの育成等は観光振興ビジョン策定後にやっているところであり、もっと精力的に努めていかなければならないと思っている。

杉本保喜委員 自分たちで検討するというのは本当に限りがあるので、協力団体にプラン作りをしてもらったり、専門家の知恵を借りてたたき台を作ったりするなど具体的に進めていただきたい。

松尾数則委員長 いろいろな意見が出たが、基本的にはアクションプランの中に取り込んで進めてもらえると理解してよいか。やるなら期限が必要となる。

姫井産業振興部長 このビジョン自体は平成27年度からの5か年計画である。このビジョンに基づいた観光のアクションプランについては今年度中に作る予定である。

杉本保喜委員 アクションプランの中でも並行してやるべきことと、そうでないところの区分けしながら進めていただきたい。

姫井産業振興部長 その辺りも十分気を付けてアクションプランの作成に努めていきたい。

大井淳一郎委員 観光振興ビジョンの前の懇話会で出た意見は観光振興ビジョンを作るためのものではなくて、その道のプロである第一線の人たちが専門的な視点から観光を考えた生の声である。アクションプランを作る際には懇話会で出た意見を振り返っていただきたい。

姫井産業振興部長 懇話会、検討会に御出席していただいた委員等にも御協力をいただいて、アクションプラン、ビジョンの具現化に向けて進めていきたい。

2 企業誘致の推進について（企業立地推進室）

3 雇用の促進策について（商工労働課）

【議事の概要】

（1） 山陽小野田市の立地環境について

- ア 主要都市からのアクセスが良好であること
- イ 産業人材が豊富
- ウ 自然災害が少ない地域
- エ 産業インフラが整備された工業団地（小野田・楠企業団地）
- オ 充実した補助金

この5つのセールスポイントをピックアップして情報発信に努めている。また、企業訪問による優遇制度の紹介やターゲット企業へのアンケート調査、企画展への出展などによって企業団地への誘致活動を進め、雇用の場の確保と産業の活性化を図っている。特に小野田・楠企業団地への誘致については、全国でもトップクラスの用地取得費用に対する80%補助を県と実施しており、力を入れている。

（2） 小野田・楠企業団地の分譲状況について

当企業団地については、平成15年に分譲を開始して平成24年3月に山口県が県の防災用地としてC、D、E、F、J、K、L区画の7区画を取得されている。その後A-2区画に有限会社大森配送センターが平成26年10月、I-2区画に市内の西部工業株式会社が今年の8月、

○区画に徳島県阿南市の藤崎電機株式会社が今年の7月に調印式を行っている。これによって残り区画が11区画、面積にして約11.6ヘクタールとなり、分譲率も47.9%となった。この民間3社の合計投資額については約27億3,000万円。新規雇用も30名が見込まれている。今後も当該企業団地への新規誘致や内発促進に努めていきたい。

(3) 優遇措置の状況について

本市では山陽小野田市工場設置奨励条例に基づき優遇措置を行っている。対象業種については製造業、電気、ガス、熱供給、水道、情報通信業、運輸業、郵便業、学術研究、専門技術サービス業としている。太陽光発電所と風力発電所については雇用が望めないということで除いている。措置内容については、工場設置奨励金、雇用奨励金、用地取得奨励金、従業員住宅新設奨励金の四つの補助金を交付している。工場設置奨励金については投下固定資産税相当額を3年度間交付しており、雇用奨励金については市民一人について20万円、帰市就職者にはさらに20万円を加算している。用地取得奨励金については小野田・楠企業団地の取得価格に対する40%補助、県も同様の措置をしているので合わせて80%の補助となっている。従業員住宅新設奨励金は市内に6戸以上の従業員住宅を新設した場合に家屋に係る投下固定資産税相当額を3年間交付している。ちなみに平成26年度の実績は工場設置奨励金が2社、雇用奨励金が1社、従業員住宅新設奨励金が1社となっている。

【主な質疑】

杉本保喜委員 企業団地にはアクセスが非常に大事だが、2号線に通じる県道江汐公園線が途中から1車線状態になる。最近は拡幅工事みたいな作業をやっているが、将来的にどうなるのか。

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 アクセス道路、県道江汐公園線については県の事業ということで山陽新幹線までが拡張済みになっており、今年度中に宇部市域の原川までの拡幅工事が終了する予定だと聞いている。国道2号線銭ヶ原交差点までの改良については県等に毎年強く要望をしているが、横断歩道や交通量の多いところが優先ということで結びつい

ていない。県も小野田・楠企業団地の完売を大きな目標としているようなので、早期実現に向けて引き続き県と一緒に頑張って強く働きかけたい。

杉本保喜委員 交差点のところまでは片側1車線の道路になると理解してよろしいか。

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 そこだけ2車線にしても余り効果がないと捉えているのではないかと思う。

杉本保喜委員 少なくとも交差点までは片側2車線にすることがこの魅力化にもつながると思うので、県のほうに強く要望して欲しい。

中島好人委員 藤崎電機株式会社が徳島県からバイオマスとの関係でこっちに帰ってきたという経緯などを説明してほしい。今後のアピールにつながると思う。

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 藤崎電機株式会社については報道関係のほうにも出ていたが、創業者の方が本市出身ということで新たに竹を主材料とするものについて郷土に錦を飾りたいという思いが強かったと聞いている。また、材料となる竹が山口県には多く、立地的にも魅力があったのではないかと思っている。西部工業株式会社については市内の企業で会社は大塚工業団地にあるが新たな立地場所を探されていたので、こちらを提案させていただき、この度調印ということになった。

中島好人委員 藤崎電機株式会社については相手方から話が来たのか、こちらからの働き掛けがあったのか

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 県の大阪営業本部が積極的に回られているので、それらの活動も大きな要因になっている。

大井淳一朗委員 全く入らなかったところに、急に入りだしたのはなぜか。今後どのように展開していくのか。

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 一番の要因は景気の回復により企業の設備投資意欲が増加したからではないかと思っている。しばらく売れなかった企業団地に3件続けて申し込み等があったので、今後はこれを追い風として積極的に企業立地推進のほうを進めて行きたい。

大井淳一朗委員 企業誘致は今の体制で大丈夫なのか。

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 平成27年度は私を含めて3名体制になっている。確かに企業団地も動きだして実質職員2名がこれに付きつきりとなっている。商工労働課のほうの業務も多いので増員ということをお願いしていきたい。

杉本保喜委員 去年は市長を初め、都会のほうに出向いてPRをしていた。今年はそういうものを計画されていないようだが、どのようなPRをしているのかを紹介していただきたい。

原田企業立地推進室主任 今年度は企業誘致特別強化事業ということで展示会等の出展を行う予定はない。そのかわり県の東京営業本部、大阪営業本部と同行させていただき新規企業のアプローチをしている。また、今年度からの県の事業として企業の社長を企業誘致アドバイザーとして招いており、その方が主催されている会のほうに出席をさせていただくようにしている。

杉本保喜委員 それは県内の市町全部に声を掛けて商工労働課から研修に行くという内容のものか。

原田企業立地推進室主任 内容は研修ではなく大阪地区と東京地区の企業関係者を集められた会を開催されており、その中に本市を含む特別会員の7市町のみが参加できるような体制作りを県のほうでしていただいた。

河崎平男副委員長 進出された3社のアクセスについてはどのようなルートを利用されているのか。

原田企業立地推進室主任 2社はまだ着工中、または着工に至っていないのでおいおい検証することになるが、有限会社大森配送センターは2号線を通られる銭ヶ原交差点のルートと小野田インターに向かう江汐公園のルートを通られると聞いている。

大井淳一郎委員 誘致して終わりではなくて、誘致した企業に対するアフターケアが重要になる。アフターケアについての現状と方向性について聞きたい。

原田企業立地推進室主任 進出後も数回訪問させていただいた。直近では有限会社大森配送センターの横の区画の草刈りをした。有限会社大森配送センターは周南市から本社の移転をしていただいたという経緯もあり、市

内企業との新たな取引も幾つか成就したということもあるので、現在は事務所だけであるが新たな敷地内における車庫等の建設等も働き掛けをしていきたいと考えている。

長谷川知司委員 このパンフレットの対象というのは日本国内の企業だと思うが、「1、主要都市からのアクセス良好」の欄に空港のことが書いていないのはなぜか。

白石商工労働課長兼企業立地推進室長 位置図の中には載っているが、御指摘のとおり文章のほうに載っていなかった。これについては改訂するときに修正する。

長谷川知司委員 東京へ行くには新幹線よりも飛行機のほうが多いので、その利便性は書かれたほうがいい。また、4番の「産業インフラが整備された工業都市」では団地のことを書いてあるが、例えば宇部市のあすとぴあにある県の産業施設なども関連して書かれたほうがここに来やすいと思う。有限会社大森配送センターがここに来られたというのは山陽小野田市の企業とのつながりがあるからだと思うので、そういう面もアピールすればいいのではないかと思うので参考にして欲しい。

松尾数則委員長 雇用奨励金は山陽小野田市に在住していることを条件にしているのか。

原田企業立地推進室主任 山陽小野田市民に限る。

午前11時26分散会

平成27年9月18日

産業建設常任委員会委員長 松尾数則